



ORIGINAL

Petromax

Rapid

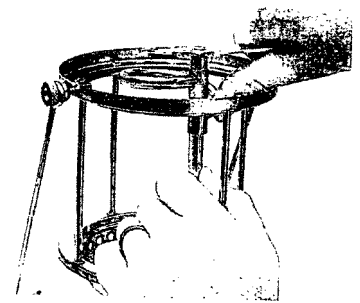
ペトロマックス ラピッドランタン  
取り扱い説明書

## I. 使用上の注意 &lt;重要!!&gt;

- ・御使用になる前に本説明書をよく読み正しくお使い下さい。
- ・必ず野外の通気の良い場所で使用してください。屋内でお使いになりますと火災等重大事故の原因になりますので絶対にお止めください。
- ・ペトロマックスランタンは灯油専用ランタンです。灯油以外の燃料は使わないでください。
- ・燃焼中または注油の際はタバコ等の火気を近づけないでください。
- ・燃焼中または消火後しばらくはランタン上部は高温になっていますので手を触れないようにしてください。
- ・燃料を入れたまま夏場の車中等高温になる場所に放置しないでください。
- ・保管及び運搬の際は必ず燃料を抜いてください。

## II. 使用前の点検&lt;重要!&gt;

- ・御使用になる前に次の点を確認してください。
- ・ノズル(3)が固く締まっているか? もしもゆるんでいる場合は手で締め付けてください。
- ・ニップル(50)が固く締まっているか? もしもゆるんでいる場合は付属のスパナ(66)で締め付けてください。(図1)
- ・バルブ(111)をまわした時クリーニングニードル(68)が上下するか? バルブは左右どちらにまわしても結構です。



(図1)



矢印が上向きの時ニップル(50)の穴からニードルが1-2mm出ます----- “閉”のポジション



矢印が下向きの時ニードルがニップルの穴におさまります----- “開”のポジション

- ・ランタン本体の光沢のある部分は保護のために透明な特殊コーティングが施されています。使用前に上部ヘッドカバー(123)の表面をきれいに磨いてから点火してください。汚れがついた状態で点火しますと、熱によってシミができることがありますので注意してください。

## III. マントルの取り付け (図2)

1. つり下げハンドル両端のネジをゆるめ、ヘッドカバー(123)およびインナーチムニー(117)を取り外してください。この時クリーニングニードル(68)の先端を破損しないために燃料バルブ(111)の矢印を下向き(“開”の位置)にしてからおこなってください。
2. ノズル(3)が固く締まっていることを確認してください。
3. マントル(4)を指先で袋状にふくらませノズルの溝に固く二重結びしてください。マントルのしわが均等になるように整え、余ったひもを切り取ってください。
4. インナーチムニー(117)を、ミクシングチューブ(33)の穴とニップル(50)の位置を合わせて取り付け、再びヘッドカバー(123)を取り付けてください。この時ミクシングチューブ(33)正面のネジがヘッドカバー上部の穴から見えるようにしてください。



(図2)

## IV. 給油 (図3)

- ・注油口キャップ(149)を取り外し、付属のジョウゴ(165)を使って灯油を入れてください。灯油はタンクの約七部目(約1.0リットル)を越えないようにしてください。燃料を入れ過ぎると圧力がかかりにくくなります。

#### IV. ポンピング (図4)

1. バルブ(111)の矢印が上向きになっていることを確認してください。
2. 注油口キャップ(149)、圧力ゲージ横の圧力調整ネジ(13)、及び予熱バーナー(226)のスイッチが締まっていることを確認してください。
3. ポンプ(6)のロックをはずしポンピングをしてください。ポンピングは確実に約50-60ストローク、圧力ゲージの針が赤色の目盛り到達するまでおこなってください。

〈注意〉 ポンピングの際スカスカとポンプに抵抗がなくなることがありますが、これは先端の革パッキンが収縮しているために起こる現象です。この状態になりましたら一旦ポンプを抜いて先端の革パッキンを指で広げ必要に応じてグリース等を塗りこんでください。

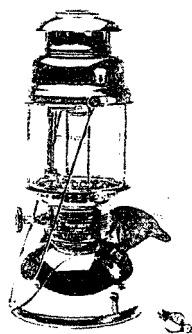
#### VI. マントルのカラヤキ (図5)

・はじめてランタンを使用する場合、またはマントル交換後はじめて使用する場合はマントルをカラヤキ(事前に燃やして白い灰状にすること)しなければなりません。マントルのカラヤキは予熱バーナーを使っておこなうことができます。

1. 予熱バーナー(226)のスイッチを手前に引くと霧状の灯油が噴き出しますので、フレームチューブ(220)根元の着火口にマッチ又はライターで点火してください。
2. ゴーッという音とともに炎がいきおいよく噴射してマントルに燃え移ります。
3. マントルが燃えていることを確認したら予熱バーナーのスイッチを戻してください。
4. マントルが黒く焦げながら縮んでいき、しだいに丸みを帯びた白い灰状に変化します。これでカラヤキが終了です。

〈注意〉

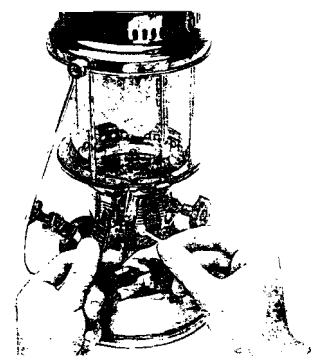
- ・もしも予熱バーナーになかなか点火しない時は次の点を調べてください。
- ・燃料が充分に入っているかどうか?
- ・タンク内の圧力が上がり過ぎていないか?または圧力が低過ぎないか?
- ・予熱バーナーのニップル(221)が詰まっていないか? 詰まっている可能性がある時は付属の掃除針(180)でニップルの穴をクリーニングしてください。
- ・カラヤキしたマントルは破損するまで何度でも使用できますが、灰状になっているため強い衝撃を与えたり、指で触れたりしますと簡単に壊れてしまいます。カラヤキしたマントルが破損した場合はすみやかに新品と交換してください。



(図3)



(図4)



(図5)

#### VII. 予熱

- ・カラヤキが終了したら再び予熱バーナー(226)を点火してください。バーナーから炎がいきおいよく噴射しジェネレーターを暖めはじめます。予熱は最低90秒以上おこなってください。
- ・予熱中はタンク内の圧力が著しく低下しますので、圧力ゲージを見ながら必要に応じてポンピングをおこない圧力を1-2バールに保ってください。
- ・予熱バーナーを使わないで予熱をおこなう方法:予熱バーナーが故障した場合等この方法で予熱をする事ができます。
  1. ヘッドカバー(123)、インナーチムニー(117)、及びホヤガラス(74)を取り外します。
  2. ジェネレーター下部の予熱カップ(35)に付属のアルコールコンテナ(67)を使ってアルコールを一杯入れてください。

3. アルコールに直接点火して予熱をおこないます。
4. アルコールが完全に燃えつきた後、もう一度予熱カップ(35)にアルコールを一杯入れ点火します。
5. ホヤガラス、インナーチムニー、ヘッドカバーをすばやくセットします。
6. アルコールによる予熱は連続して最低2回以上おこなってください。

## VIII. 点火

1. 予熱バーナーによる予熱が90秒以上経過したらバルブ(111)の矢印を下向きにしてください。
2. マントルに点火したことを確認して予熱バーナー(226)のスイッチを元の位置に戻してください。
3. ポンピングをおこない圧力を2-3バールまで上昇させてください。
4. 点火直後は炎の状態が安定しないことがあります。しばらく燃焼するうちに白く安定した状態に変化します。
5. 明るさの調整はタンク内の圧力を上げ下げすることによっておこないます。バルブ(111)をまわしても明るさ変化しますがこの方法ですとジェネレーターの故障につながりますのでおやめください。

- 〈警告〉
- ・予熱を充分におこなわないままバルブを開けますと、液状の燃料が気化しないままニップルから噴き出し、それに引火してランタン上部が燃え上がり、重大な事故につながる可能性があります。予熱は時間をかけて慎重におこなってください。
  - ・もしもこの状態になりましたら、落ち着いて素早くバルブの矢印を上向きにし(“閉”の位置)、圧力調整ネジ(13)を左にまわしてタンクの圧力を抜いてください。しばらくすると噴き出した燃料が燃え尽きて消火します。ランタンを一旦冷却させ、こぼれた燃料を完全に拭き取った後、再度予熱、点火の手順を繰り返してください。

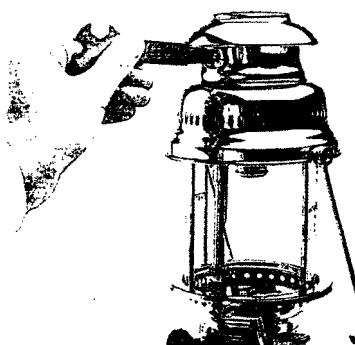
## IX. 消火

1. 圧力ゲージ横についている圧力調整ネジ(13)を左にまわしてタンク内の圧力を抜いて消火してください。
2. バルブ(111)の矢印を上向き(“閉”の位置)にしてください。
3. 本体が完全に冷却した後、圧力調整ネジを右にまわして締めてください。

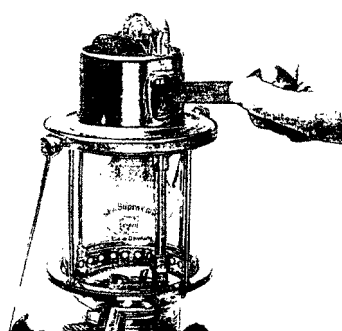
〈注意〉バルブ(111)を閉めて消火しないでください。この方法でもマントルの炎は消えますが、ジェネレーター内に燃料が残留し次回使用する際不完全燃焼の原因になります。消火は必ず圧力調整ネジを開けておこなってください。

## X. 使用上のポイント

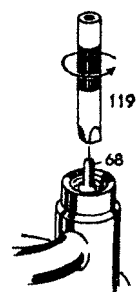
- ・マントルの交換〈重要!〉:破損したマントルは絶対に使用しないでください。たとえ小さな穴でもその部分から異常燃焼が発生し重大な故障を引き起こします。マントルの破損を発見したら速やかに新品に交換してください。
- ・ミクシングチューブ(33)にはガスの量を調節する弁が付いています。もしも明かりがちらついたり、十分な明るさが出ない時は専用スパナ(66)をヘッドカバー(123)上部の開いている部分に差し込んで調整してください。マイナスネジが垂直になっている時弁が最大に開きます。(図6)
- ・ニップル(50)から噴射したガスは空気と混合してミクシングチューブ(33)に入ります。十分な明るさが得られない時は混合比のバランスが崩れている可能性がありますのでミクシングチューブを固定しているネジを緩めて高さの調節をおこなってください。高さの調節は専用スパナ(66)に付いているゲージをニップルとミクシングチューブの間に当て調べることができ(350/500cpの位置)、最終的には燃焼状態を見ながらベストの位置に調整してください。(図7)



(図6)



(図7)



(図8)

- ・ニップル(50)のクリーニング:しばらく燃焼しているとススがニップルの穴に詰まり光度が落ちることがあります。この状態になりましたら燃料バルブ(111)をすばやく回転して、ニードル(68)を上下させてニップルをクリーニングして下さい。
- ・ニップル(50)及びクリーニングニードル(68)の交換:ニードルの針を破損したり、ニップルの調子が悪くなった時は付属のニードルキー(119)、専用スパナ(66)を使って交換してください。(図8)
- ・ホヤガラス(74)は破損しやすいので取り扱いには充分注意してください。特に燃焼中に雨水等がガラスに当たると温度差によって割れてしまいますので注意してください。

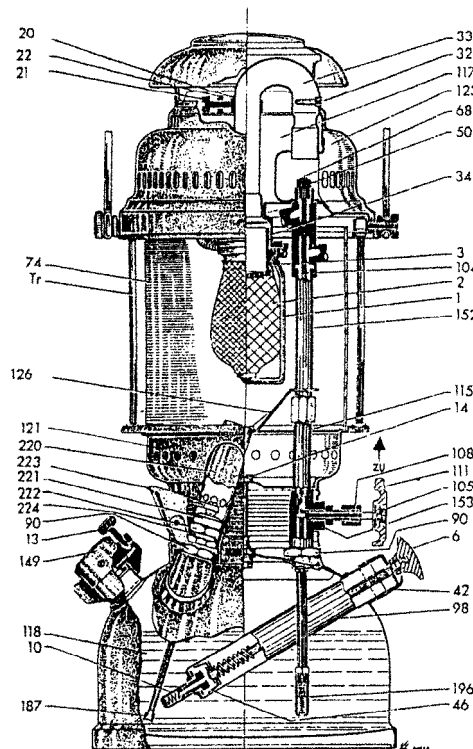
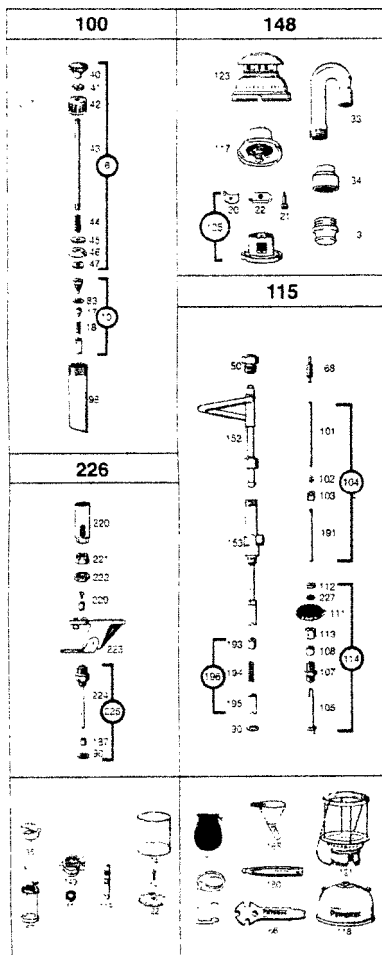
### X I. スペック/付属品

- ・高さ:400mm、 ・タンク直径:170mm、 ・重さ:1.5kg、 ・タンク容量:1.0リットル
- ・明るさ:500CP(400ワット)、 ・燃焼時間:8時間/L
- ・付属品:取り扱い説明書、マントル、ジョウゴ、アルコールコンテナ、  
パーツセット(専用スパナ、掃除針、ニップル、クリーニングニードル、ニードルキー、注油口ゴムパッキン)

### X II. 保証

保証期間内(お買い上げ日から1年間)に本説明書に記載のお取扱方法に従い正常な使用状態において故障が発生した場合は無料にて修理をいたします。お買い上げ時のレシートを大切に保管してください。修理を依頼される場合は販売店にお持ちください。尚、マントル及びホヤガラスは消耗品のため保証の対象になりませんので御了承願います。

### X III. パーツリスト



- 3ノズル
- 4マントル
- 6ポンプセット
- 10ポンプバルブ
- 11注油口ゴムパッキン
- 13圧力調整ネジ
- 33ミクシングチューブ
- 34ガスチャンバー
- 35予熱カップ
- 46革パッキン
- 50ニップル
- 66専用スパナ
- 67アルコール入れ
- 68ニードル
- 74ホヤガラス
- 100ポンプ  
コンプリート
- 101コンダクティング  
ロッド
- 108グラファイト  
パッキン
- 111バルブ

- 114バルブ/コンプリート
- 117イソナーチムニー
- 119ニードルキー
- 121フレーム
- 122センタープレート
- 123ヘッドカバー
- 149圧力計付き注油口キャップ
- 152ジェネレーター
- 153ジェネレーター下部
- 165ジョウゴ
- 190掃除針
- 196ジェネレーターバルブ
- 220フレームチューブ
- 226予熱バーナー

輸入販売元  
東京都荒川区東日暮里4-5-16  
株式会社スター商事(Tel, 03-3805-2651)  
<http://www.star-corp.co.jp>